

高等学校における主権者教育の積極的な取組例について

★「3年生への指導」と「結果の把握」を徹底し、3年生への主権者教育を100%実施

✓ **在籍する高校3年生に対する「指導」を徹底**

✓ **管下の高等学校の実施状況を「把握」**

✓ **卒業までに100%実施**

(神奈川県については最終確認中)

【東京都】

- 国の副教材に加え、都が作成し全員の生徒に配布したリーフレットを補助教材として活用するよう指導
- 1月時点で、178課程（各教科：107課程、特活：13課程、総合：102課程(複数回答可)）で実施（うち模擬選挙(32課程)、出前授業(29課程)） → 年度末までに全236課程で実施済

（成果）

- ・主権者としての自覚の育成、夏の参議院選挙への意識の向上、
- ・選挙権、選挙制度や公選法への知識・理解の定着

（課題）

- ・国の副教材配布が11月～12月となったことや卒業までの限られた授業時数の中で指導計画の見直しを行わざるを得なかったこと

【神奈川県】

- 高校3年生の生徒全員を対象に、1単位時間以上を必ず実施するよう指導

【岐阜県】

- 高校3年生の生徒全員を対象に、2月までに必ず実施するよう指導

※：いずれも都県立高校の状況について聴取

★独自のガイドラインの作成

✓ **指導事例の提示や授業時数の確保**

【大阪府】

- 副教材も活用した年間指導計画例の提示、2年修了時までに計5単位時間確保するなど、政治的教養を育む教育のためのガイドラインを作成・公表

★主権者教育モデル校の設置

✓ **先進的な実践と普及**

【長野県】

- 県教委と県の選管とで連携協力に関する協定書を締結
- 高等学校については、主権者教育モデル校を設置（①選管の協力を得た生徒会長選挙、②生徒が作成した公約に基づく模擬投票の実施等）

【平成28年度に向けた各学校の取組例】（※各都県からの聞き取り例）

- ・公民科において、主権者教育に関わる単元の授業時数を増加し、指導の充実
- ・地区の選挙管理委員会との連携を強化し、出前授業、模擬選挙を実施
- ・学校設定科目「シティズンシップ」を設けたり、NPOと連携するなどした主権者教育を実施

✓ **取組時数の増の見込み**

✓ **選管やNPOとの連携強化**

新1～3年生のカリキュラムにおいて主権者教育の一層の充実

※：国において実態把握のための全校調査を実施

小学校社会科における取組例

取組の概要

小学校社会科において、廃棄物の処理に関わる対策や事業に関する学習を通じて、地域社会の一員として、地域の人々の願いを実現するための、関心・意欲・態度を育む。

取組のねらい

廃棄物の処理に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っており、住みよい環境の中で、人々が健康的に暮らすために、自分自身は何ができるのかを考えることができるようにする。

取組内容

○家庭から出るごみを把握する

家庭ごみの種類や量、その処理について観察し、ノートにまとめる。

○ごみの処理について調べる

- ・ごみ収集に携わる人の苦労や工夫
- ・ごみ処理の仕組み
- ・リサイクル工場ではたらく人々の努力や工夫
- ・ごみの出ない循環する社会
- ・リサイクルされたごみの行方
- ・燃やされたごみの行方
- ・ごみを減らすための取組

○ごみを減らすためにできることをまとめる

住みよい町にするために、自分たちにできることを考え、表現する。

中学校生徒会活動における取組例

取組の概要

- 生徒会が中心となり、学区内の生徒会同士が連携し、地域におけるボランティア活動を企画し、実施する。

取組のねらい

- 学区内39地区ごとの地区生徒会で地域ボランティア活動を企画し、地域に住む1人としての自覚を高め、ボランティア活動の大切さを実感する。また、地域に限らず、様々な場で生徒が自主的・主体的にボランティア活動に取り組むことができるようにする。

取組内容

- 生徒会本部が中心となり、地区生徒会長・副会長と話し合い、地区ごとにどのような活動ができるか検討する。
- 「地域に貢献し隊」を発足させ、学区内39地区ごとに話し合い活動を行い、自分たちができるボランティア活動は何かを考える。
- 夏季休業期間中に、道路のゴミ拾いや地区公民館の清掃等、自分たちで計画したボランティア活動を実施する。
- 地域の方から、「地域に貢献し隊」に関わる話を聞いた上で、反省や改善点を確認したり、他地区の活動内容を知り、今後の活動について話し合いを行う。